

石造物が教える利根川中流域の寺子屋師匠達

— 関宿町及び野田市の筆子塔・天神塔を中心として —

石田 年子

はじめに

「筆子塚研究」という深緑色の分厚い本を目にしたのは、野田市興風図書館でのことである。著者は千葉県富津市にお住まいの川崎喜久男氏で、氏は高校教師の現役時代に二十余年を費やして、オートバイで千葉県全域の寺院・墓地等をくまなく回られ、三千基余の筆子塔や寿碑を発見されたという。筆子塔は寺子屋・私塾等で教えを受けた生徒（筆子）達が師匠の逝去に際して、お金を出し合い墓碑を建てたもので、墓石の台座や棹部脇に筆子中や門人中と刻んだり、筆子氏名が彫付けられたものを云い、その筆子塔を確認することによって、江戸時代の庶民教育の実態が鮮明になるのだと言う。

庶民教育機関としての寺子屋は、江戸前期より庶民の間から自然発生的に立ち上がったもので、主に文字の読み書きや計算、女子には裁縫や作法など実技の習得を中心にした授業が主であった。思想的には何ら問題が無いとした江戸幕府は村の人別調査等にも寺子屋関連の記載を求めなかった。そのため、幕末当時の記録は比較的人々の記憶や言い伝えで明らかだが、江戸前期・中期となるとその実態が皆目わからないと言うのが現状で、それを石造物から確認すると言うのが川崎氏のねらいであるらしかった。

件の「筆子塚研究・下総国葛飾郡」には野田市七三基、関宿町三四基の筆子塔が記されており、それらの筆子塔を筆者自身で実見することを思いついた。それにプラスして新しい筆子塔の発見が何基かあれば望外の喜びである。そんなきっかけから始めた野田市・関宿町の筆子塔の調査は二年余を要して野田市内に百二十人、関宿町に四五人、合計百六十五人の寺子屋師匠の存在を確認することが出来た。その詳細を（表1）に示した。

調査過程

調査は、平成十二年の秋十月より平成十四年の八月まで行ったものを纏めたものである。前にも述べたように川崎氏の調査をベースに、寺社・地域の共同墓地・個人墓地などの僧侶墓や墓石をひたすら確認する作業であったが地元の利を生かして多くの新発見が得られた。

平行して、平成十三年後半より筆者の所属する地方史の会の有志とともに再確認の作業や、筆子塔の研究発表会なども開いた。その結果、個人宅に造立されている筆子塔の貴重な情報も寄せられ、一層の進展をみる事ができた。

筆子塔として確認はできなかったが、表1の末尾に文献資料などに載っている寺子屋師匠も掲載した。



船形・観音寺 筆子塔



(全面台座に筆子名が刻まれている)
清水・車坊墓地筆子塔

表1、関宿町・野田市の筆子塔

総No	No	師匠名	身分	所在地	没年又は造立年	西暦	碑文(備考)
-----	----	-----	----	-----	---------	----	--------

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
□□□全	田中元俊	釋現隣師／天神塔	權律師祐信	法印照空	法印戒全	僧侶師匠	僧侶實成	俊興法師／天神塔	直井仁太夫／天神塔	權大僧都法印快清	法印快傳	傳警教順法師	權大僧都法印慶峰	順教法師	大阿闍梨法印實英	法印祐筐	釋教道／五兵衛	權大僧都法印歡玄	法印志通	春榮法師	法印權大僧都智嚴	法印淳照	心了法師	香蓮社戒誓薰悅	法印慶範	法印尊祐	法印證實和尚	權大僧都法印弁雅	權大僧都法印須雅	權大僧都法印弁雅	
僧侶	医者	俗人	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶		
岡田 福寿院	東宝珠花 田中家墓地	堀之内 戸塚宅	関宿台町 昌福寺	木間ヶ瀬小作 慈眼院	木間ヶ瀬向ノ内 勢至寮	岡田 福寿院	木間ヶ瀬小作 慈眼院	木間ヶ瀬内野 神明神社	木間ヶ瀬武者土 直井宅	古布内新敷 浄禅寺	古布内新敷 浄禅寺	木間ヶ瀬大山 大日堂	関宿台町 福寿院	木間ヶ瀬小作 無量壽院	木間ヶ瀬小作 無量壽院	桐ヶ作 金乘院	古布内堀之内 地藏堂	桐ヶ作 金乘院	木間ヶ瀬小作 慈眼院	木間ヶ瀬小作 観音坊	木間ヶ瀬羽貫 観音坊	関宿台町 昌福寺	関宿台町 福寿院	木間ヶ瀬下根 薬師堂	桐ヶ作 金乘院	木間ヶ瀬羽貫 観音坊	木間ヶ瀬小作 宝蔵院	木間ヶ瀬砂南 宝蔵院	古布内新敷 浄禅寺	古布内新敷 浄禅寺	
安政三年	安政三丙辰三月二十三日	安政二年乙卯二月二十有日	安政二年乙卯二月二十有日	嘉永四辛亥年八月二十六日	嘉永四辛亥年八月二十六日	安政三年	安政二年乙卯二月二十有日	弘化四未年十二月十五日	天保十四癸卯年七月十六日	天保十三壬寅三月二十日	文政十三年	文政九寅年正月四日	文政九丙戌天二月二十日	文政九丙戌天二月二十日	文政九丙戌天二月二十日	文化七午年三月初五日	文化六巳歲正月二十九日	文化六巳歲正月二十九日	文化七午年三月初五日	文化七午年三月初五日	文化七午年三月初五日	寛政十戊午年二月七日	寛政十戊午年二月七日	天明二壬寅星十月二十三日	天明元丑年十月二十三日	安永六酉年八月二十四日	明和三戌星三月初六日	延享四丁卯十月二十七日	元文四己未四月十三日	享保二丁酉十二月九日	正徳三癸巳二月五日
一八五六	一八五六	一八五六	一八五六	一八五三	一八五三	一八五五	一八五五	一八四七	一八四三	一八四二	一八三〇	一八二六	一八二六	一八二六	一八一九	一八〇九	一八〇九	一八〇九	一七九八	一七九八	一七九八	一七八二	一七八一	一七七七	一七六六	一七四七	一七三九	一七一七	一七一三		
岡田・金野井・丸井・新宿筆子中	筆子五七人／女子八人	筆子中	筆子中	筆子中・法類中・世話人中／同	筆子中	筆子中	筆子中	弟子・筆子・採子中	門人一同	直井氏筆子中	筆子中	筆子中	筆子中	筆子中	台座に氏名多	筆子一〇人	桐ヶ作邑惣筆子中	筆子中・取子中	惣筆子中	筆子連・臺郷並境志連	筆子中	筆子氏名三名	筆弟中	羽貫村惣筆子中	筆弟中	筆跡弟子等／遺弟等	手跡門弟	筆子	筆子	筆子	

野田市の筆子塔

61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31						
19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31						
法印源榮	法印源盛	要全和尚	法印源照	法印祐譽	権少僧都阿闍梨法印光榮	法印源秀	堅蓮社宅譽運阿辯の大和尚	法印宥榮	常譽西運法師	至道郁外大和尚禪師	権大僧都法印宥雅	法印祐昌	法印尊譽	権大僧都法印榮樹	法印援良	権大僧都法印快詠	聖山養祝大和尚禪師	法印大阿闍梨元智	豊後国神主息子	台座	権僧正慧山大和尚	藤井勘四郎	不動良秀和尚	文随法子	法印明晔	桂光院具阿上人忍澄	正蓮社戒譽順應和尚	一心法師	戸塚兵右衛門／天神塔							
僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	村役人
三ッ堀 円福寺	三ッ堀 円福寺	山崎 海福寺	三ッ堀 円福寺	目吹 観音院	中里 妙楽院前	三ッ堀 円福寺	上三ヶ尾 熊野山墓地	三ッ堀 円福寺	船形 三区公会堂墓地	山崎 海福寺	三ッ堀 江川墓地	山崎 福寿院	三ッ堀 円福寺	岩名 光明院跡	岩名 光明院跡	宮崎 寮	山崎 鏡円寺	東金野井 満福寺	木間ヶ瀬内野 神明神社	桐ヶ作 金乗院	木間ヶ瀬内野 神明神社	古布内新敷 浄禅寺	木間ヶ瀬内野 神明神社	木間ヶ瀬小作 慈眼院	木間ヶ瀬小作 慈眼院	関宿元町 吉祥寺	木間ヶ瀬小作 慈眼院	堀之内 雷電社								
安永二癸巳六月朔日	明和八辛卯九月十一日	明和四丁亥天十月十日	明和三丙戌七月初十日	明和二酉歲正月初七日	宝曆十三癸未天六月廿六日	宝曆十二年七月十二日	宝曆十一年辛巳九月十日	宝曆六丙子七月初七日	宝曆三酉天六月十九日	寛延四辛未年四月十一日	延享元甲子天五月十七日	寛保二壬戌天八月二十一日	元文元丙辰十二月廿日	享保十巳天九月十六日	享保三戌歲五月十五日	正徳四甲午歲四月七日	宝永六己丑年四月念六日	元禄二己巳稔孟夏下旬口日	不明	不明	明治三拾二年十一月	明治十三辰年十二月十一日	明治五壬申年八月二十三日	明治五申年六月十六日	明治四未天二月二十七日	文久三亥年六月九日	文久二壬戌年七月二十九日	文久二壬戌年正月二十五日								
一七七三	一七七一	一七六七	一七六六	一七六五	一七六三	一七六一	一七五六	一七五三	一七五一	一七四四	一七四二	一七三六	一七二五	一七一八	一七一四	一七〇九	一六八九	一八九九	一八八〇	一八七九	一八七二	一八七二	一八七一	一八六三	一八六二	一八六二	一八六二									
筆弟	有縁・筆弟	筆子中	筆弟	筆子	筆子二五人	有縁筆弟	筆子中二七人	有縁筆弟	惣施主中	筆弟子等	筆子	有縁筆弟	筆子	岩名村一〇人、五木村三人 筆弟子	惣弟子	筆下従弟	俗人弟子三人	筆子	筆子中	筆子中	筆子中	筆子中・法類中・世話人中	筆子一五人	筆子中	筆子中	筆子中	筆子中	筆子一四名氏名								

93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	
51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	
遊阿清信士／平兵衛	行賢法師	大阿闍梨法印觀深	前面崩	權大僧都法印祐慶	法印了堂	大阿闍梨法印覺儀	傳燈大阿闍梨法印眞覺	法譽上人	傳燈大阿闍梨法印祐性	戸辺六右衛門	圓玄法師	法印祐筐	判読出來す	泰漸法師（大森家墓地）	法印祐專	巒秀泰峯大和尚禪師	塩田文治郎	法印勝如	眞譽善入法師	秀岳玄峯和尚	上野由珉	須田養泉	大慈院海信能入居士／杉下家	諸町氏	見性法子	香取神社神官／狛犬	明譽義光上人	俊弘法吟大和尚	法山梅教大和尚	子訓亭 田中谷水／忠五郎	阿闍梨法印智照	
俗人	僧侶	僧侶	修驗	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	僧侶	
三ツ堀 淨法寺	目吹 宮作墓地	今上 秀覺寺	灰毛 青年館隣墓地	中里 満蔵寺	三ツ堀 円福寺	今上 秀覺寺	三ツ堀 円福寺	中里 西岸寺	三ツ堀 円福寺	中野台 成就院跡墓地	木野崎 恵空寺	木野崎 遍照院	下三ヶ尾 阿弥陀寺	木野崎 遍照院	中里 満蔵寺	山崎 鏡円寺	野田下町 安心坊	木野崎 遍照院	下三ヶ尾 泰道院	下三ヶ尾 普門寺	船形 不動坊	岩名 観音堂墓地	目吹 花光院	中野台 天満宮	下灰毛 稻荷神社脇墓地	三ツ堀 香取神社狛犬	中里 西岸寺	下三ヶ尾 普門寺	下三ヶ尾 普門寺	野田下町 安心坊	山崎南大崎 小松家	
安永六酉天七月十二日	安永八己亥天六月初廿日	天明八戊申年正月十三日	寛政四〇口二月廿〇日	寛政四子年六月九日	寛政九巳年四月初六日	寛政十一未七月十三日	享和二戌歲十一月晦日	享和二天戌正月二日	文化元甲子天	文化元年甲子六月三十日	文化七年九月二十七日	文化七年九月初五日	文化七年六月十一日	文化十癸酉七月廿八日	文化十癸酉七月廿八日	文化十癸酉七月廿八日	文政三庚辰年十二月八日	文政六癸未年五月二十八日	文政七甲申年四月初六日	文政九戌年十月二十九日	文政九戌年三月二十日	文政九年九月十日	文政十亥年二月十七日	文政十年十二月二十六日	文政十一年	天保二辛卯年九月十八日	天保十己亥正月二十五日	天保三辰歲十月二十四日	天保六乙未正月朔日	天保六乙未五月三日	天保七丙申九月八日	天保九戊戌年十二月八日
一七七七	一七七九	一七八八	一七九二	一七九二	一七九七	一七九九	一八〇二	一八〇二	一八〇四	一八〇四	一八一〇	一八一〇	一八一〇	一八一二	一八一三	一八一四	一八二〇	一八二〇	一八二四	一八二六	一八二六	一八二六	一八二七	一八二七	一八二八	一八三一	一八三二	一八三二	一八三五	一八三五	一八三六	一八三八
保木間村筆子三人	庄内領目吹村 筆子二人	筆子九〇人余	筆子中	中里村筆子四三人	三ツ堀村筆子五人	筆子九〇人余	筆子中	子供中	剃髮弟子並筆弟共五〇人	筆子中	筆子 氏名	筆子一人	筆子口人	筆子中	筆子三〇人	筆弟子	筆子中	筆子六〇人余	猿島郡逆井村筆子中	筆子中	筆子中	筆子中	筆子一六人	鰐口に諸町氏筆子中（現在なし）	筆子中	三ツ堀 保木間 上灰毛筆子中	筆講中	筆子中	筆子中	筆子中	筆子中（天満宮灯笼）	

125 124 123 122 121 120 119 118 117 116 115 114 113 112 111 110 109 108 107 106 105 104 103 102 101 100 99 98 97 96 95 94

83 82 81 80 79 78 77 76 75 74 73 72 71 70 69 68 67 66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52

南嶺礁宗大和尚禪師
 權大僧都法印正觀
 大法師順察
 随意院釈惠海法師
 觀阿瑞応清信士／早川家
 法印賢道
 染谷喜右衛門（観空）
 森川豊太郎／灯籠
 東山玉順章沙弥
 法印権大僧都法雲
 大濤元海大和尚禪師
 大塚弥五右衛門（二世）
 権大僧都法印観恭
 小泉欽斎
 秋山長五郎（狛犬）
 松山永貞信士
 善貞／天満宮
 中條 哲
 愛山義文
 勤信清信士
 染谷玄岱
 覚蓮社入譽知足直通和
 岡田伝左工門
 明蓮社静譽上人阿立甘露老和尚
 諸町善右衛門
 岡田新兵衛
 権訓導藤井千明
 和光諦聴
 法秀寛量大和尚
 二世松山永治
 山崎甚五右衛門

僧侶 下三ヶ尾 普門寺
 僧侶 船形 観音寺
 僧侶 中野台 成就院跡墓地
 僧侶 船形 びんずる寮
 僧侶 上花輪 長命寺
 僧侶 今上 覚貞寺
 僧侶 清水 車坊墓地
 僧侶 中里 満蔵寺
 僧侶 木野崎本郷 天満宮
 僧侶 下三ヶ尾 泰道院
 僧侶 中里 満蔵寺
 僧侶 山崎 鏡円寺
 僧侶 上花輪 東福寺
 僧侶 西三ヶ尾 正覚寺
 僧侶 三ツ堀 円福寺
 僧侶 瀬戸 八坂神社
 村役人 野田 無山坊
 神官 横内 香取神宮
 医者 野田下町 安心坊
 士族 上花輪 長命寺
 俗人 船形 観音寺
 医者 中里 満蔵寺
 僧侶 三ツ堀 浄法寺
 僧侶 木野崎 山崎家
 僧侶 中里 西岸寺
 名主 中野台 報恩寺
 村役人 中里 岡田家墓地
 僧侶 東金野井 満福寺
 僧侶 山崎 明浄寺墓地
 僧侶 山崎 海福寺
 俗人 野田 無山坊
 名主 吉春 地蔵堂

天保九戊戌歳十二月年
 天保九年正月十五日
 天保十四年卯二月朔日
 嘉永元年申年十月一日
 嘉永四辛亥二月八日
 嘉永五壬子年三月廿一日
 嘉永五壬子年八月廿日
 嘉永五壬子年四月初朔日
 嘉永六歳癸丑正月吉日
 安政三丙辰十一月十六日
 安政四丁巳年正月十七日
 安政四巳年閏五月十三日
 安政六己未年三月吉日
 文久二壬戌八月十一日
 文久二戊戌五月
 文久二戊戌二月十五日
 元治二丑年二月日
 慶應三卯年七月十四日
 慶應三丁卯年六月二十六日
 慶應四辰年四月二十七日
 明治七年六月十二日
 明治八乙亥年十月初四日
 明治九年十一月二十五日
 明治十丑四月二十三日
 明治十三年八月二十八日
 明治十三年辰年一月九日
 明治十四年辛巳七月二十日
 明治十五年八月初二日
 明治十五年七月初二日
 明治十五年三月二十一日
 明治十六年九月二十二日

一八三八 筆子中
 一八三八 筆子中五二人
 一八四三 筆子六四人
 一八四八 筆子中／筆子二〇人
 一八五一 筆子中
 一八五二 早川筆子中
 一八五二 清水村筆子四四人
 一八五二 筆子中 筆子一八人余
 一八五三 筆子中
 一八五六 筆子七〇人余
 一八五六 筆子一五人
 一八五七 筆子三〇人
 一八五九 筆子四九人
 一八六二 遺愛輩（長文碑）三六名
 一八六二 筆子
 一八六二 筆子中
 一八六五 善貞筆子中
 一八六七 筆子中
 一八六七 筆子中
 一八六八 筆子中
 一八七四 筆子二六三人
 一八七五 筆子
 一八七六 筆子中
 一八七七 筆子三八人
 一八八〇 筆子中
 一八八〇 筆子中 三〇余名
 一八八一 筆子二五人
 一八八二 （明治に入り学校長）
 一八八二 筆子中
 一八八二 門人中
 一八八三 筆子五〇〇人（墓碑）

石造物以外で確認された寺子屋・私塾師匠

総No.	No.	師匠名	身分	開業場所	開業年間	出典資料等
144	1	大井家／数代	僧侶	木間ヶ瀬下根 本明院	不明／明治五年	木間ヶ瀬の歴史／千葉県教育史／筆子四〇〇名
145	2	小沼左源太	名主	木間ヶ瀬	万延元年／明治六年	木間ヶ瀬の歴史／千葉県教育史／筆子二〇〇名
146	3	知久三郎右衛門	名主	木間ヶ瀬新宿	元治元年／明治六年	木間ヶ瀬の歴史／千葉県教育史／筆子一〇〇名
147	4	寺田主水／秀桂	僧侶	目吹 獄乗院弟子	幕末／明治初期	千葉県教育史／野田市教育史略
148	5	大杉某	俗人	旧旭村	不明	千葉県教育史／野田市教育史略
149	6	原田某	俗人	旧旭村	不明	千葉県教育史／野田市教育史略
150	7	花光院住職	僧侶	目吹 花光院	不明	千葉県教育史／野田市教育史略
151	8	大殿井某	俗人	大殿井	不明	千葉県教育史／野田市教育史略
152	9	妙泉寺住職	僧侶	横内 妙泉寺	不明	千葉県教育史／野田市教育史略
153	10	大野栄祥	僧侶	船形 富蔵院	天保九年から明治三年	千葉県教育史／野田市教育史略
154	11	高須賀五郎左衛門／清明	俗人	岩名 高須賀家	江戸後期	高須賀庄五郎履歴／門人一〇〇余名

126	84	佐藤佐次郎／大連社一譽上人	僧侶	上花輪 東福寺	明治二十二年十一月十六日	一八八九 筆子中
127	85	大沢徳次	名主	蕃昌 大沢家前	明治二十四年三月十八日	一八九一 筆子中
128	86	小松佐五郎	神官	山崎南大崎 小松家墓地	明治二十六年六月十日	一八九三 (明治維新より僧侶から神官になった)
129	87	岡田閑静	俗人	木野崎 山崎家	明治二十七年三月	一八九四 筆子 一二四人
130	88	深蓮社玉譽上人白阿	僧侶	三ツ堀 浄法寺	明治二十九年三月九日	一八九六 筆子有志
131	89	祐應／堤台(つみうてな)	僧侶	中野台 報恩寺	明治二十九年七月十三日	一八九六 (いろは四九文字の刻まれた墓石)
132	90	達走良道大和尚禅師	僧侶	山崎 海福寺	明治三十七年四月二十七日	一九〇四 筆子中 一九名
133	91	島村彦右衛門	名主	東金野井 清泰寺	明治三十九年十一月十四日	一九〇六 門人(顕彰碑)
135	92	高須賀幸誠／庄五郎	俗人	岩名 勢至堂墓地	明治四十二年十月初六日	一九〇九 (明治期に教員)
136	93	小泉玄弘	俗人	三ツ堀 円福寺	明治四十五年一月十三日	一九一二 (No.七六と親子)
137	94	染谷岱順	医者	中里 満蔵寺	明治四十五年七月七日	一九一二 門人中
138	95	松山琴子	俗人	野田 無山坊	大正十二年二月二十三日	一九二三 上灰毛／下灰毛／木野崎／保木間／手獅子筆子
139	96	不明	僧侶	木野崎 日枝神社入口	不明	筆子中
140	97	荒井	名主	宮崎 荒井家	大正	筆子一四人
141	98	大淨蓮心法師	僧侶	小山 共同墓地	〇〇〇十一月二日	筆子一四人
142	99	正覚寺住職	僧侶	西三ヶ尾 正覚寺	不明	俗人弟子一〇人
143	100	不明	僧侶	中里 西岸寺	台座のみ	筆子中
		霊仙院住職	僧侶	中里 霊仙院跡		

165164163162161160159158157156155

22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12

五十嵐某
橋田清庵
橋田昌栄
元貞
喜田某
秋山某
井上極齋
井上恵美
竹村良
望月傳右衛門(東雲)
森川清兵衛

俗人 俗人 俗人 俗人 俗人 俗人 俗人 俗人 俗人 俗人 俗人

野田町坊山
野田町下町
野田町下町
野田町下町
野田町下町
野田町下町
野田町下町
野田町下町
上花輪 長命寺
上花輪 長命寺
中根 後藤家
山崎
梅郷村

慶應元年〜明治二年
安政年間〜明治六年
安政年間〜明治六年
元治元年〜明治二年
明治元年〜明治四年
明治元年〜明治四年
幕末〜明治初期
幕末〜明治初期
幕末〜明治初期
江戸後期〜明治初期
江戸後期〜明治初期

野田町誌／男女一五名
野田町誌／近隣の子女に教授
野田町誌／近隣の子女に教授
野田町誌／男女一五名
野田町誌／男女一五名
野田町誌／男女一五名
野田町誌／生徒一〇名
野田市教育史略／慶應年間一五名
野田市教育史略／慶應年間一五名
野田市教育史略／慶應年間一五名
間貸り／中根十字路／後藤家に寺子屋開設
梅郷村誌／東葛郡誌／常に百數十人
梅郷村誌／東葛郡誌／常に百數十人

野田地方の寺子屋普及状況

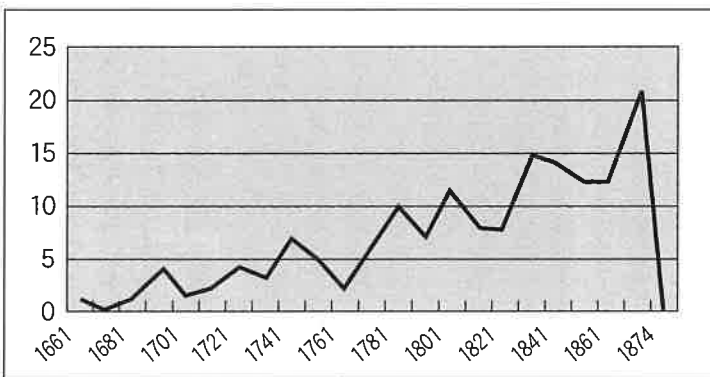
寺子屋開業状況を表と折れ線グラフにして見た(図表1)。これは開業年が判るもの以外は筆子塔に刻まれた没年に一般の教育史で予想開業年数とされる三十年を遡ってプラスしたものである。

グラフが示すように十九世紀より寺子屋の開業件数が大きく伸びをみせるのは、他の地方と同じだが、十八世紀も予想以上に開業件数は多いという感想をもった。

江戸中期頃までは圧倒的に宗教関係者(僧侶・神官)が多い寺子屋師匠達も、江戸後期に入ると野田町や河岸などの町場では医者・士族・一般有識者などの参入も目立ち始める(図表2)。

又、幕末に顕著なことは、各村の名主や村役人達による規模の大きな寺子屋経営が目立つことである。百姓といえども商品経済を避けては通れない江戸後期には、地域の児童への教育が不可欠となつてゆく。まだ今回の調査では確認できなかったが、地域によつてはいわゆる「水呑百姓」の児童達も寺子屋に通つていた痕跡があるという。子供と言えども労働力の一端であつた当時において、最下層の農民が子供を何年も寺子屋に通わせるのは多大な負担であつたはずである。それを敢えて通学させたのは、ある程度の学力が無ければ世渡りが難しい社会状況が既に出来上がつていたのではなからうか。そんな社会の流れの中で高い月謝を望むべくもない農村において、村の自

図表1. 各時代の寺子屋開業件数



* 師匠没年より30年遡った年を中心に作成

年号	西暦	開業件数	年号	西暦	開業件数
寛文元年	1661	1	天明元年	1781	10
寛文11年	1671	0	寛政3年	1791	7
天和元年	1681	1	享和元年	1801	12
元禄4年	1691	4	文化8年	1811	8
元禄14年	1701	1	文政4年	1821	8
正徳元年	1711	2	天保2年	1831	15
享保6年	1721	4	天保12年	1841	14
享保16年	1731	3	嘉永4年	1851	12
寛保元年	1741	7	文久元年	1861	12
宝暦元年	1751	5	明治4年	1871	21
宝暦11年	1761	2	明治7年	1874	0
明和8年	1771	6	不 明		10

治を司る名主・村役人が否応無く教育の中心となつていったと考えるのが自然なような気がする。

天神塔と寺子屋との関係

筆者はここ数年かけて関宿町の近世石造物の悉皆調査を試み、昨年初頭に関宿城博物館のご協力も得て小冊子を作成した経緯がある。収録済みの石仏を信仰別に分類すると七三種にもなった為、これを見た他県の石仏仲間から「石仏のデパートの様な地域」と評された。

徳川三百年の間には生活形態の変化等により石仏の世界も動きが生じる。江戸前期には庚申信仰や月待信仰、阿弥陀如来・大日如来・地藏菩薩等の仏教の代表的な仏への信仰が主流であったものが、時代が下がるに従って「病気を治す神仏」「金運を呼ぶ神仏」「水運関連の神仏」等のように願いの用途によって多種多様な石塔が造立されるようになり、さながら「石仏のデパート」の状況を呈することになってしまったのであろう。

その関連で言うなら天神塔は「学業向上の願い」を担って造立された「寺子屋御用達」の石塔ということになる。云うまでもなく「天満宮」「天神宮」は、学問や和歌に優れながら九州大宰府に流され恨みをのんで死んだとされる菅原道真公が祭神である。将門等と並んで御霊信仰の代表として恐れられていたが、後には天神や雷神と結びついて農耕神や、学問の神として庶民に信仰されるようになり、現在に至っている。

特に、野田地方の天満宮・菅公像の石造物においては、寺子屋・私塾との関連が非常に深いと考えられる。まず、次頁に管見による関宿町三五基と野田市三三基の江戸期造立の天満宮の詳細を(表2)で明記してみることとした。

この他に神社としての天神社が大小十四社ほど存在しており、当地方の天神信仰の深さを物語っている。

イ・石塔造立年について
表2を見てまず感じる事は、十八世紀にポツリポツリだった天神宮の造立が、十九世紀に入るやいなや、にわかには造立が増加し幕末にはほとんどの地区に何らかの形で天神塔が奉られる形が出来上がっているということである。当地方の寺子屋の開業が十九世紀に集中していることを考えれば、寺子屋との結びつきの強い天神塔であることの証明となるうか(図表3)。

ロ・天神塔造立者について

造立者がどのような人々であるのか、碑文等から推してみた(図表4)。天神塔造立者内訳が示す様に①・筆子 ②・師匠 ③・個人 ④・村中 ⑤・不明に区別される。施主名に筆子中、手習子供中などと明記してあるのはもちろんであるが、台座部分に氏名が列記してあるものは筆子名と解釈した。師匠による造立は、前に見てきた筆子塔より割り出した師匠名が記してある場合や塔が立つ場所が寺子屋であった場合である。造立者の記されていない菅公像がかつて寺子屋があった寺の境内にある場合などは、僧侶師匠が造立したものと考えた。すると全体の六割弱が寺子屋関係者(師匠・筆子)による造立という結果となった。

ハ・天神塔造立地について

視点を寺子屋との関係においてみよう。前から見てきた筆子塔の所在地及び寺子屋所在地を地図に落とし、全地図上に天神塔も重ねて入れたのが(図1)である。天神塔の奉られた寺院にかつて寺子屋があった場所が十六件あり、また近隣に寺子屋等があったものをいれると、全体の七〇%余りが寺子屋との関連を窺うことができる(表3)。筆子塔による師匠と天神塔の造立年に違いがある場合もあるが、師匠が違っても寺子屋が継続的に続いていた可能性も強いと考えられる。

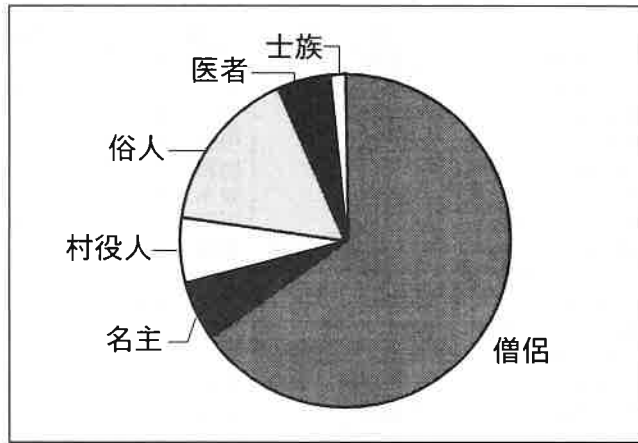


岩名 須田家の庭に立つ天満宮
(銘 手跡門人百四人)

表2、関宿町・野田市の天神宮／石塔・木像（江戸期）

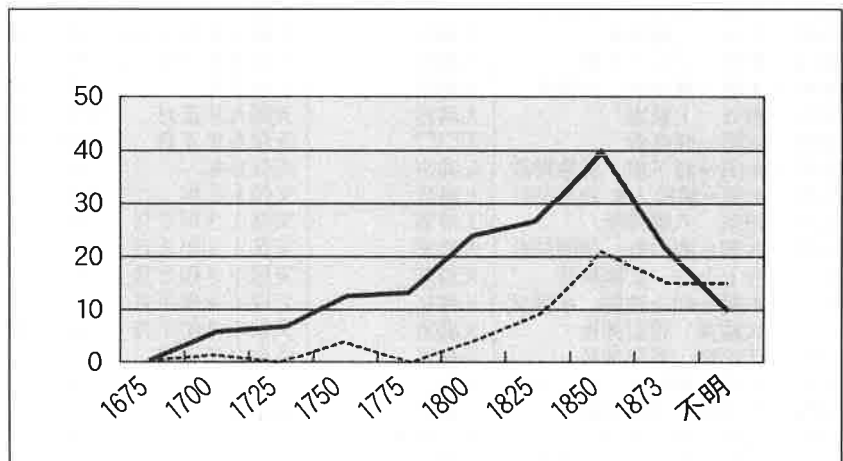
番号	所在地	銘文	造立年	西暦	碑文等	造立者	寺子屋有無
1	関宿町 古布内 石宮橋	記銘なし	元禄6年9月	1693		不明	不明
2	関宿町 古布内 天神社内	天満宮	元文元年12月	1736	梅紋の石刀あり	不筆	不明
3	関宿町 岡田 香取神社	菅公座像	寛保2年12月	1742	梅鉢紋 金子氏	個人	有り
4	野田市 谷津香取神社	天神宮	明和5年2月	1768	谷津村惣氏子／氏名9名	筆子	不明
5	野田市 今上 稻荷神社	天神宮	明和5年2月	1768	今上村小七外4名	筆子	不明
6	野田市 谷吉神社	天満宮	安永9年正月	1780		地区	不明
7	野田市 今上下谷 女体神社	天神宮	天明4年	1784	氏名4名	個人	不明
8	関宿町 木間ヶ瀬前村 本田家	菅公座像／木像	寛政年間	1800	〔村役人〕	筆子	不明
9	関宿町 東宝珠花 日枝神社	天満宮	文化5年11月	1808	当村手習子供中	筆子	不明
10	野田市 木野崎 遍照院	天神宮	文化5年霜月	1808	手習子供中	筆子	当寺開業
11	関宿町 木間ヶ瀬出洲 水神社	天満宮	文化6年4月	1809		地区	不明
12	野田市 上花輪 神明神社	天神宮	文化9年正月	1812		筆子	不明
13	関宿町 下納谷 金龍院	菅公座像／木像	文化十一年	1814		師匠力	当寺開業
14	野田市 野田下町 長命寺	天満宮	文化11年正月	1814	子供中	筆子	当寺開業
15	野田市 山崎大崎 小松家(大照院)	出世天満宮	文化12年11月	1815	筆子氏名9名	筆子	当寺開業
16	関宿町 岡田 香取神社	菅公座像	文政5年12月	1822		地区	有り
17	野田市 西三ヶ尾 正覚寺	天満宮	文政8年1月	1825	大法師観恭筆子中	筆子	当寺開業
18	野田市 船形 上自治会館	菅公座像	文政11年4月	1828	猪穴・松山若者中	地区	有り
19	関宿町 木間ヶ瀬武者土直井家	菅公座像	文政13年	1830	直井氏筆子中	筆子	当寺開業
20	関宿町 木間ヶ瀬小作 慈眼院	天神宮	文政13年12月	1830		師匠	当寺開業
21	関宿町 次木 三嶋神社	天神宮	文政14年正月	1831	氏名17名	筆子	不明
22	野田市 船形 びんずる寮	天満宮	天保2年3月	1831	家内中12人	筆子	不明
23	関宿町 木間ヶ瀬出洲 水神社	天満宮	天保3年	1832	寒念仏子供講中	地区	不明
24	関宿町 柏寺 上原家	天満宮	天保4年正月	1833	柏寺筆子中	地区	不明
25	関宿町 木間ヶ瀬高倉	天満宮	天保6年正月	1835	高倉坪中	地区	不明
26	関宿町 木間ヶ瀬下根 香取神社	天満宮	天保6年	1835	氏名15名	筆子	当社開業
27	関宿町 木間ヶ瀬松ノ木 鹿島神社	天満宮	天保12年	1841	向ノ内筆子講中	筆子	有り
28	関宿町 岡田 八幡神社	天神宮	天保13年7月	1842	氏名5名	筆子	有り
29	関宿町 木間ヶ瀬内野 神明神社	天満宮	天保13年3月	1842	俊興法師門人一同	筆子	当庵開業
30	野田市 今上上谷 女体神社	天満宮	天保13年2月	1842		地区	有り
31	関宿町 木間ヶ瀬上納谷 水神堂	天神宮	天保14年正月	1843	鈴木虎蔵外3名	筆子	有り
32	野田市 大殿井 香取神社	天満宮	天保14年正月	1843	梅鉢紋附き	筆子	不明
33	関宿町 江戸町 香取神社	天満宮	弘化2年正月	1845		不明	不明
34	関宿町 木間ヶ瀬飯塚 白山神社	天満宮	弘化2年正月	1845	氏名3名	筆子	不明
35	関宿町 古布内 不動墓地	天満宮	弘化3年	1846	氏名3名	筆子	当庵開業
36	関宿町 元町 香取神社	菅公座像	弘化5年	1848	子供中	筆子	有り
37	関宿町 木間ヶ瀬羽貫 須賀神社	天神宮	嘉永2年	1849	川辺仁左衛門	個人	有り
38	野田市 中里 天神社	菅公座像	嘉永3年	1850		個人	有り
39	関宿町 東宝珠花 日枝神社裏	天満天神宮	嘉永4年	1851	田中元俊門弟弟子36名	筆子	近隣で開業
40	関宿町 平井 香取神社	天満宮	嘉永6年	1853	台座氏名11人	筆子	不明
41	関宿町 堀之内 戸塚家	天満宮	安政3年	1856	釈現隣師筆子中	筆子	当寺開業
42	野田市 目吹 熊野神社	天満宮	安政4年	1857	子供中13人	筆子	不明
43	関宿町 桐ヶ作 香取神社	天満宮	文久2年	1862	遠藤治口	個人	不明
44	関宿町 堀之内 雷電社	天満宮	文久2年	1862	戸塚兵左衛門ほか5名	筆子	当寺開業
45	関宿町 古布内 石宮橋	天神宮	文久4年	1864	大寿院 熊盛五代建立	師匠力	不明
46	関宿町 木間ヶ瀬羽貫 須賀神社	天満宮	文久4年	1864	羽貫坪筆子中	筆子	不明
47	野田市 横内 香取神社	天満宮	元治2年	1864	善貞 筆子中	筆子	有り
48	野田市 東金野井 天神社	天満宮	元治2年	1865	東金野井村 氏名6名	筆子	有り
49	関宿町 東宝珠花 日枝神社	天満宮	慶應2年	1866	氏名5名	筆子	有り
50	野田市 東金野井 天神社	天満宮	慶應2年	1866	東金野井村 氏名8名	筆子	有り
51	野田市 船形 不動坊斜面	菅公座像	慶應3年	1867	氏名14人(女子3名)	筆子	有り
52	関宿町 木間ヶ瀬砂南 稻荷神社	天満宮	慶應4年	1868	木間ヶ瀬村 藤井侃四郎	師匠	有り
53	野田市 木野崎 山崎家	菅原御神道靈公	明治9年	1876	筆子中	筆子	当寺開業
54	関宿町 三軒家 鬼門よけ稻荷社	天満宮	昭和13年	1938	再建／藩校関連力	地区	不明
55	関宿町 桐ヶ作 横張家	菅公座像(木像)	記銘無し	不明		個人	不明
56	関宿町 堀之内 十二神社	天神宮	記銘無し	不明		地区	不明
57	関宿町 東宝珠花 日枝神社	菅公座像	記銘無し	不明		個人	不明
58	関宿町 東宝珠花 日枝神社	菅公座像	記銘無し	不明	台座に梅の木	個人	不明
59	関宿町 岡田 岩本家	菅公座像(木像)	記銘無し	不明	昔は天神社であった(名主)	個人	不明
60	野田市 船形 香取神社	菅公座像	記銘無し	不明		地区	不明
61	野田市 小山 水神社	菅公座像	記銘無し	不明		地区	不明
62	野田市 岩名 香取神社	菅公座像	記銘無し	不明		地区	不明
63	野田市 五木香取神社	天満宮	記銘無し	不明	五木村中	地区	不明
64	野田市 目吹高根 香取神社	菅公座像	記銘無し	不明		地区	不明
65	野田市 目吹下町 香取神社	菅公座像(木像)	記銘無し	不明	昔は独立した天神社か	地区	不明
66	野田市 今上 稻荷神社	菅公座像	記銘無し	不明		地区	不明
67	野田市 今上 八幡神社	菅公座像	□□□九月吉日	不明	今上村	地区	不明
68	野田市 灰下 稻荷神社	菅公座像	記銘無し	不明		地区	不明
69	野田市 下三ヶ尾 普門寺	菅公座像	記銘無し	不明		師匠	当寺開業
70	野田市 下三ヶ尾 泰道院	菅公座像	記銘無し	不明		師匠	当寺開業

身分	人数	割合
僧侶	112	68%
名主	9	5%
村役人	10	6%
俗人	26	16%
医者	7	4%
士族	1	1%
計	165	



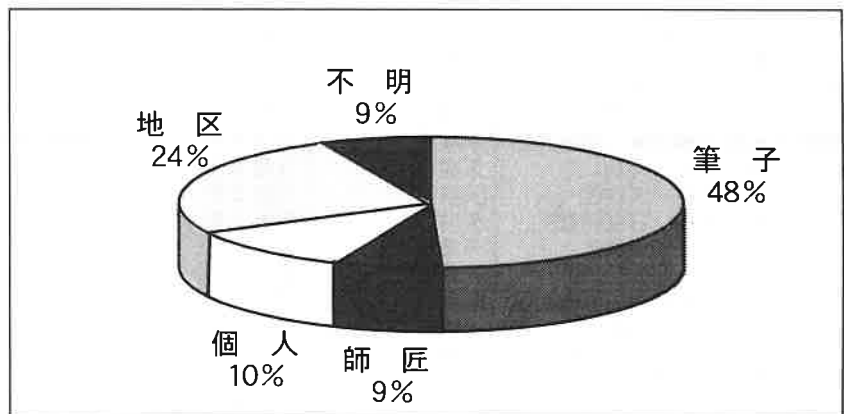
図表 2、寺子屋師匠身分の割合

年代	寺子屋 開業件数	天神塔 造立件数
1675	1	0
1700	6	1
1725	7	0
1750	13	4
1775	14	0
1800	24	3
1825	27	9
1850	40	21
1873	23	16
不明	10	16



図表 3、寺子屋開業件数と天神塔造立件数の変遷（25年毎）

造立者	人数	割合
筆子	34	48%
師匠	6	9%
個人	7	10%
地区	17	24%
不明	6	9%

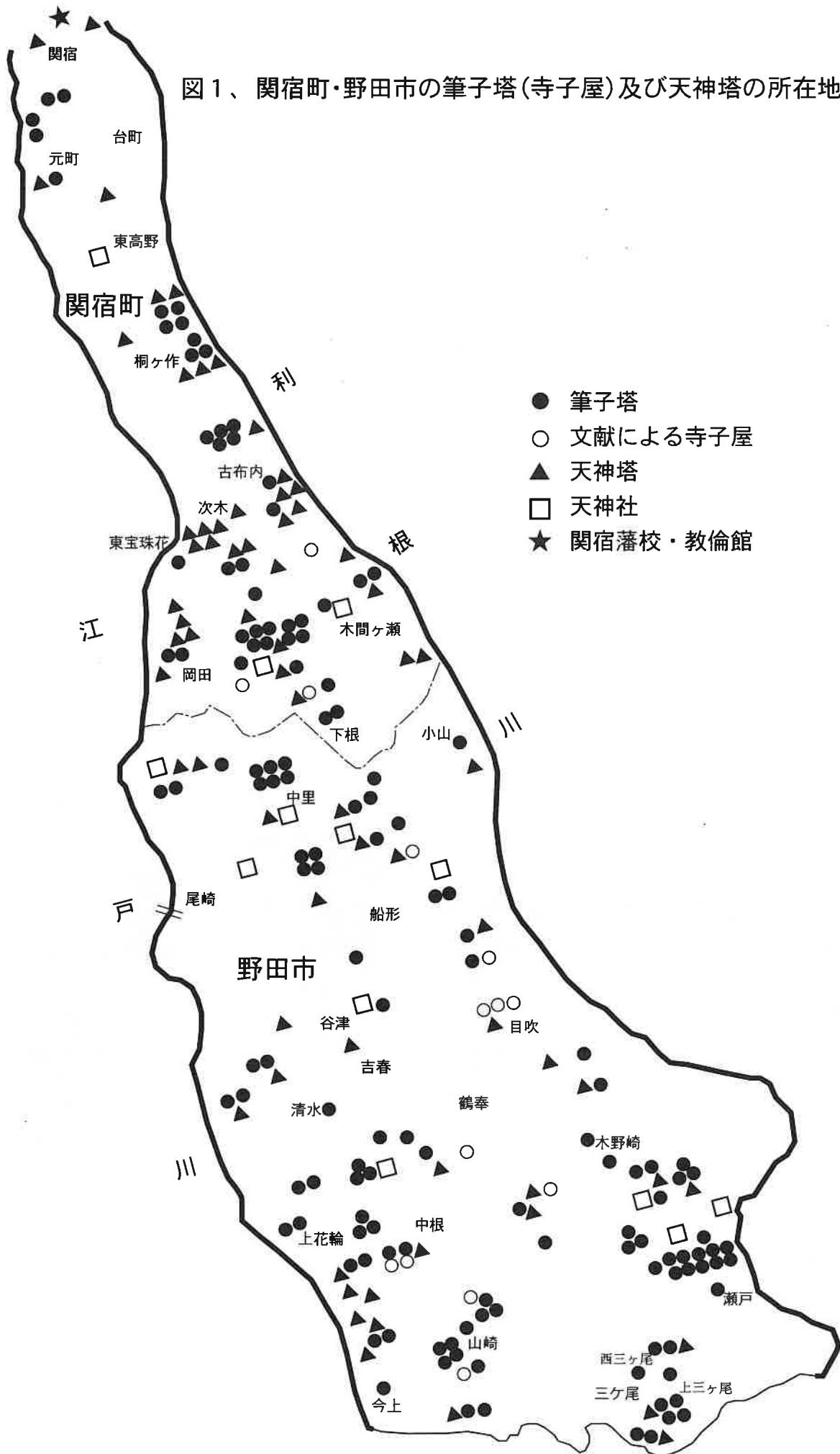


図表 4、天神塔造立者の内訳

項目	塔数	割合
近くに寺子屋があった	34	48%
当地が寺子屋開業地	16	23%
不明	20	29%

表 3、天神塔造立地と寺子屋の関係

図1、関宿町・野田市の筆子塔(寺子屋)及び天神塔の所在地



おわりに

関宿町岡田・福寿院墓地に、安政三年に立てられた筆子塔がある。台座に「筆子中」と大きな文字で彫られたその墓石は、石の劣化により前面が剥落し「全」の文字しか残されていない。おそらく「法印口全」とあったと推測されるが、左側に岡田・金ノ井・丸井・新宿と筆子達の出身地が彫られ、その下方に瓢箪と盃のイラストが刻んである。酒が好きな師匠のために、筆子達が「あの世でもお酒を…」と石工に頼んで彫りこんだようである。師匠の酒好きは墓参の度に筆子達の間で親しみを込めて話題になったに違いない。当時の師弟の結びつきを感じるほのぼのとした筆子塔である。

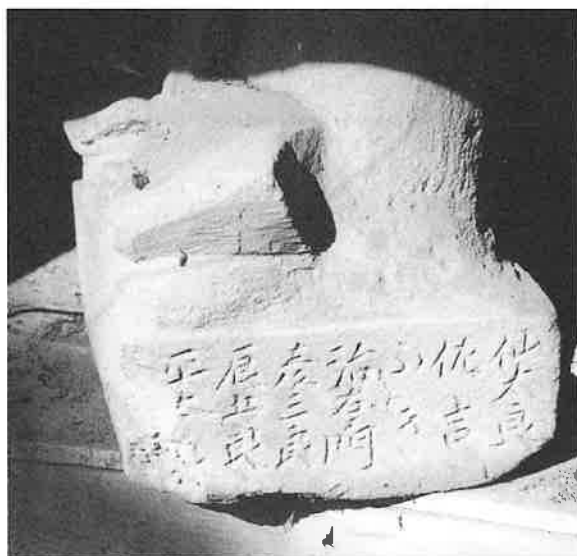
さて、「筆子塚の研究」川崎喜久男著の後を追うことから始めた野田地方の寺子屋師匠は一六五名の掘り起こしに成功することが出来た。これも多くの方々にご協力を頂いたおかげと感謝の気持ちでいっぱいである。

野田市三ツ堀・房総石造文化財研究会の大先輩である戸向朝夫氏より多くの情報をいただいた。又・社寺や墓地はさておき、寺子屋師匠宅の庭に立つ顕彰碑などは個人の力では発見は困難であるが、野田地方史懇話会の皆様による貴重な情報で個人宅の筆子塔が多数発見できた。川崎喜久男先生には、色々貴重なアドバイスを頂いた。ここに書面を借りてお礼を申し上げる次第である。

【参考文献】

- 川崎喜久男著『筆子塚研究』多賀出版株式会社 一九九二
- 神尾武彦編『人びとの学びの歴史』民衆社 一九九四
- 大宮市立博物館『石造物に見る大宮の寺子屋』大宮市教育委員会 一九八七
- 岩田慶順編『木間ヶ瀬の歴史』関宿町教育委員会 一九四一
- 野田市史編纂委員会編『野田市教育史略』野田市役所 一九七五
- 野田尋常高等小学校編『野田町誌』国書刊行会 一九八七

(客員研究員)



筆子氏名の刻まれた台座



船形 不動坊 菅原道真像

千葉県立関宿城博物館 研究報告
第 7 号

平成 15 年 3 月 31 日発行

編集・発行 千葉県立関宿城博物館
〒270-0201 千葉県東葛飾郡関宿町三軒家 143-4
電 話 04 (7196) 1400
F A X 04 (7196) 3737

印刷・製本 有限会社 飯島印刷サービス
〒270-0213 千葉県東葛飾関宿町桐ヶ作 560-2
電 話 04 (7196) 1610
F A X 04 (7196) 1641
